

医学大辞典で「がん細胞」を調べると、悪性腫瘍細胞とあり、正常な細胞が遺伝子レベルにおいて何らかの不具合が生じた結果、死に至らしめると記載されています。

しかし、近年、免疫学の研究では、免疫細胞である白血球の食菌能力が著しく低下している時に発症していることが証明されています。また、過剰なストレスを受けることにより、乳酸や活性酸素の影響から体液が酸化することでも免疫細胞の能力が低下し、がん発生の一因となることも知られています。

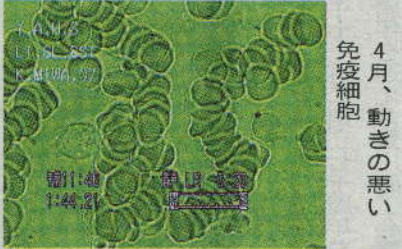
過剰なストレスを受けて大きく歪んだ骨格によって血管やリンパ管が圧迫されて虚血に陥ることが、転移や発



自然医学総合研究所所長
大沼 善誉

自然治癒を科学する

そして、科学技術の急速な発達によって免疫の細胞が生きているか死んでいるかという検査が可能になりました。生きている免疫の細胞は、外敵から身を守るだけではなく、炎症を抑えるためのステロイドホルモンの調節のほかに性ホルモンの



4月、動きの悪い免疫細胞



5月、動き出した免疫細胞

がんの盲点 ⑬

調節や、やけどや怪我の修復時には、遺伝子という体の設計図に照らし合わせて新しい細胞を作る大工さんのような仕事にも影響しています。その他、骨代謝や内臓機能反射など自律神経の管理も行っていきます。過労時に、怪我や事故の発症率が高くなるのは、体液の酸化に伴い、免疫細胞の機能が低下し、反射神経も鈍くなるからで

す。さらに、消化吸収や体温調整の他に造血臓器の管理など、全ての生命現象に直接関わります。従って、免疫の細胞が働きやすい環境を保つことが回復の鍵となります。

次に自然療法で回復するということ、鎖骨の歪みを疑わなければ

ばなりません。女性でした。五月の血液画像で性の鎖骨を調べたところ両側ともに顕著な歪みがありました。これがリンパ管を圧迫し、腫れた可能性が有ること、そのために眠りが浅く、ホルモンのバランスも不安定であったことを確認し、改善に努めました。

四月の血液画像では、血液は汚れ、免疫細胞の動きは鈍い状態

（名譽医学博士・生に掲載します）

（毎月、第一木曜日）

化学博士・平成11年度
社会文化功労賞受賞・
ナチュラルケアセンタ
ー院長

講演会のお知らせ

テーマ (1)
「癌を克服するためにV」
講師：市向猛 岐阜県中津川市立病院外科部長 医学博士

テーマ (2)
「自然治癒の原理 I」
講師：大沼善誉 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 生化学博士・名譽医学博士

日時：7月15日 (日)
場所：名古屋市中区ウィルあいち
開場：午前9時30分
開費：会員無料
非会員1000円

主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会
共催：自然医学総合研究所
申し込み：自然医学総合研究所
TEL 052・801・7063 まで

問い合わせ
電話 052・801・7063
Eメール yoshinori@nrt.ne.jp
URL http://www.nrt.ne.jp